

臨床能力とストレス対処行動からみた新人看護職員研修再編の効果

植松紗代,小松光代,和泉美枝,神澤暁子,西村布佐子,大澤智美,
中村尚美,倉ヶ市絵美佳,橋元春美,眞鍋えみ子
京都府立医科大学

【緒言】

A 大学病院では臨床能力向上を目指し看護職キャリアシステム構築プランの採択を機に,教育プログラムの見直しを行った.中でも新人看護職員(以下新人)に対しては,詳細な年間計画と到達目標を提示し,参加型学習,客観的臨床能力試験,臨床心理士の面接を新規に導入し,同期との交流の充実を図った.

本報では,再編前後で新人の臨床能力とストレス対処行動を比較し,研修の効果を検証する.

【方法】

対象者は,再編前の新人(中途採用除く)50名と再編後34名,それぞれH22,23年2月に看護師長から質問紙を配布し,回収箱への投函を依頼した.調査内容は,1)臨床能力として教育ニードアセスメントツール(三浦ら:以下教育ニード),看護実践の卓越性(亀岡ら:以下卓越性),2)ストレス対処行動(中村ら):カタルシス,計画立案,回避的思考,放棄諦めの4下位尺度からなり,得点が高い程その対処行動をとる頻度が高い.倫理的配慮は,依頼文に研究趣旨と個人情報保護に関する内容を記載し,結果の公表について同意を得た.

【結果】

対象者は,全員女性(平均年齢,再編前 23.4 ± 1.1 歳,後 22.8 ± 4.7 歳).再編前後で比較した所,臨床能力の教育ニードは,前 84.6 ± 13.3 ,後 85.1 ± 12.9 ,卓越性は前 112.6 ± 20.4 ,後 112.7 ± 18.5 で差はなかった.ストレス対処行動では,カタルシス再編前 7.3 ± 1.3 ,後 8.5 ± 2.4 ($p < .01$),計画立案は前 7.6 ± 1.1 ,後 8.7 ± 2.0 ($p < .01$)と有意差を認め,回避的思考,放棄諦めでは差がなかった.次に臨床能力とストレス対処行動の相関をみた所,前後共に計画立案と教育ニードでは中程度の負の相関を(前 $r = -0.4, p < .05$,後 $r = -0.5, p < .01$),卓越性とは正の弱い~中程度の相関を認めた(前 $r = 0.3, p < .05$,後 $r = 0.4, p < .01$).また再編後のみ放棄諦めが教育ニードと中程度の正の相関を示した($r = 0.5, p < .01$).これらから,再編前後で臨床能力に変化はなかったが,カタルシス・計画立案等の積極的なストレス対処行動では再編後の方が高かった.また計画立案は教育ニード,卓越性と関連があることを確認した.

【考察】

新人教育プログラムの再編後に積極的対処行動の向上が確認され,またその一部の計画立案と臨床能力との関連から,先を見越して問題解決する能力を高めることにより相乗的な臨床能力の向上の可能性が示唆された.(本研究は文部科学省H21年度助成事業「看護職キャリアシステム構築プラン」の一部である)